

陽だまり

21

Vol.

2016.6

小児科

儘 田 医師

小児科 成長・発達外来の開設
5月17日(木)より、小児科にて成長・
発達外来を開設いたします。

診察日: 毎週火曜日
受付時間: 13:00~16:00 (予約制)
担当: 西村 孝 先生

日本赤十字社和歌山県立看護センター
日本赤十字社和歌山県立看護センター
日本赤十字社和歌山県立看護センター
日本赤十字社和歌山県立看護センター

儘田 (はまだ) 医師



公益財団法人
丹後中央病院

広報誌

〒627-8555

京都府京丹後市峰山町杉谷158-1

TEL 0772(62)0791

<http://www.tangohp.com>

陽だまりvol. 21

CONTENTS

「長島園の桜 ～つれづれの友となりても～」 病院長 西島 直城	2
新任医師のご紹介 呼吸器内科 佐竹 範夫 院長代行	4
新任医師のご紹介 小児科 百井 亨 院長補佐	5
新任医師のご紹介 小児科 儘田 光和 医師	6
院内感染対策勉強会 丹後園域地域リハビリテーション 支援センターの御紹介 リハビリテーション部	7
小児科成長・発達外来 開設のお知らせ 薬の豆知識 薬剤部	9
送迎バス 施設部	10
展示のご紹介	11
外来担当医表	12

◆ 今号の表紙 ◆



平成28年4月より小児科の診察が
開設しました。2A棟 診察室6
儘田（ままだ）医師

「らい予防法」と「結核予防法」が起した悲劇

～つれづれの友となりても～

病院長 西島 直城

桜のころ、岡山県の長島園を訪ねたことがあります。

手の神経がおかされた人が多かった記憶があります。

手の変形・機能低下が起こるらい病・ハンセン病には、長い悲しい歴史があります。

親が家に帰ってみると小学生の子供がどこかに連れ去られていたということが、平然と行われていました。

国の政策として、結核は「結核予防法」とらい病については「らい予防法」により、患者はそれぞれの収容施設に拘束されていきました。瀬戸内海の「長島」という島にある長島園はそういった施設の一つです。ここは本土から海峡で隔てられ、泳いで渡ることはできない潮流が流れています。

長島園に収容されていた子供たちは、「家に帰りたい！お母さん！お母さん！」と泣き叫んでいたそうです。



瀬戸内海 長島



長島愛生園

大正時代に皇后さまが、この地をご訪問されたのも桜の頃だったと聞かされています。

つれづれの友となりてもなぐさめよ
ゆくことかたきわれにかはりて

宮内庁から、行くことをかたくなに止められていました。

私が、この歌碑を訪れたのも桜が満開でした。

皮肉にも手の外科専門医によって、神経麻痺の手を機能再生する手術が、現在のように可能・発展したのは、この病気の治療からだったといわれています。

かつて、らい病は不潔で狭い環境でその病気にかかりやすいとされ、狭いところで育児するとこの病気にかかると言われていました。1996年らい予防法は廃止され“ハンセン病”が正式用語となりました。今でこそらい病はかなり珍しい病気となったがこれらの法律が廃止されるまで、随分悲しい歴史があったのです。過去の悲しい話は、桜の木の下ではより深い重い悲しみになります。

瞼の母

～佐竹先生 医師の道に進む～

誕生日は1月1日です。八百屋の息子として生まれましたが、嫌いな食べ物なトマトときゅうりです。

1歳になる前日の大晦日、「白目をむいて死んでいた」と後年母から聞かされました。母があきらめずに4～5軒の開業医をまわってくれて、最後の医院で助けていただきました。

3歳の頃、母が突然いなくなりました。母はサナトリウム（結核療養所）に入院しました。入院前に抱きしめられたことを覚えています。入院中三年間は面会が許されませんでした。

従って、私は小さい頃に、母の病気を治す人、医師の道に進むことを決心いたしました。残念ながら医師になる前に母は亡くなりました。

その後、京大の呼吸器内科に進みました。判断に迷う時はいつも「自分の母親ならば」と考えるようにしています。

今では、自分の子供の姿を見ると、白目をむいた自分を見ていた母の気持ちが痛いほど身に染みます。瞼を閉じれば母の姿が浮かんでくるのです。



H28.4 病院南側駐車場の桜

おことわり — 佐竹先生のプライバシーに関しては自発的なお言葉を得たものです。 —

新任医師のご紹介

呼吸器内科 佐竹 範夫 院長代行

平成28年3月1日より丹後中央病院に赴任いたしました呼吸器内科の佐竹範夫と申します。出身は京都市で昭和60年卒業です。呼吸器内科を卒業以来専攻してまいりました。京都大学胸部疾患研究所附属病院にて平成9年まで勤務し休職にて2年間ドイツ留学後、平成11年から市中病院にて呼吸器内科の臨床に携わってまいりました。従って、医師としての人生はほぼ半分を京都大学で過ごしたことになります。この度、当院にお世話になることとなり、何卒よろしくお願い申し上げます。



高齢化社会が進むにつれ、呼吸器内科疾患の増加に伴い、呼吸器内科の需要は増してきております。肺炎（誤嚥性肺炎を含む）は言うに及ばず、気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、気管支拡張症、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺癌、間質性肺疾患群、睡眠無呼吸症候群等が対象疾患としてあげられます。また、WHOの調査によると2020年には世界の死亡原因の10位までに呼吸器系疾患が4つ入るという事が予想されています。従って、今後は益々、呼吸器内科の需要は増してくるものと思われます。当科では、特に肺癌に関しましては、診断から治療方針決定まで、短時間にすむように努めていきたいと考えております。当院には呼吸器外科がございませんので、他病院の呼吸器外科と連携をとりながら、集学的治療を行っていきたくと存じます。最近増加しつつありますCOPDにつきましても、呼吸リハビリテーションを含め、包括的治療を行ってまいりたいと考えております。気管支喘息については吸入ステロイド薬を含めた吸入療法が主となってきており、より多くの方々に吸入ステロイド薬の普及に努めていく必要があると考えております。肺結核を含め、呼吸器感染症としての肺炎（現在死因の第3位）は、高齢化社会において非常に重要な問題であり、特に誤嚥性肺炎については、高齢者に多い疾患であり、呼吸器内科として取り組んでいく必要があると考えております。当院は急性期病院であり、申し上げましたCOPDの急性増悪、気管支喘息発作、誤嚥性肺炎等についても十分な対応ができるようにと考えております。まだまだ、現時点では、微力ではございますが、呼吸器疾患の患者さまのお役に少しでも立つように、情熱を持って今後取り組んでまいりたいと存じます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

私は大阪府枚方市で生まれ間もなく隣の寝屋川市へ移り、大学卒業まで同地で過ごしました。インターン制度の廃止運動をきっかけにした青医連運動の真ただ中で大学生活を送り、お蔭で卒業は半年遅れの昭和45年9月でした。卒業後は京都大学小児科に“入り”（当時は“入局”という言葉は使用禁忌）、



昭和48年から1年間福井県立病院小児科勤務、次いで京都大学小児科で隔離病棟や未熟児センター勤務の一方で、代謝・内分泌グループに所属しました。その頃ライソゾーム蓄積症の酵素診断を実施していたことから昭和55年ノースウエスタン大学小児科（H.L.Nadler教授）へ留学し、Farber病の責任酵素の生化学的研究などを行いました。帰国後昭和58年天理よろづ相談所病院、同60年京都大学小児科、そして平成2年小児科部長として日本赤十字社和歌山医療センター（当時は和歌山赤十字病院）に赴任しました。当院の西島院長には10年以上前から「早く日赤を辞めて丹後へ来い」と言われていましたが、新医師臨床研修制度への対応などに追われて中途退職が難しくなり、挙句の果てに予期もしなかった院長に就任してしまい、西島院長の期待に添えぬまま本年3月末に定年退職を迎えました。しばらく臨床から離れており小児科医としてはもう役に立たない年齢ですが、「院長補佐でもいいから手伝え」との温かい(?)言葉に甘えてやってまいりました。10年来懂れていた丹後王国での生活を楽しみながら皆様のお役に立てるよう努力する所存です。宜しくお願い致します。

新任医師のご紹介

小児科 儘田 光和 医師

4月より和歌山からこちらに赴任してまいりました儘田光和と申します。難しい漢字ですが、「ままだ」と読みます。小児科を担当させていただきますので、よろしくお願いします。



平成7年に京都大学を卒業後、あちこちの病院に勤務する中、大学院卒業後の3年間は弥栄病院におりました。その経験からか、峰山と大宮は都会だなあと思ったりしています。小児科では一般外来のほか、予防接種や乳児健診、また専門である内分泌疾患（低身長、糖尿病、甲状腺疾患や思春期早発症など）を中心として、まずは外来をメインに診療を行っていきます。少子化の中でいかにして子どもたちの健全な発達・発育を見守っていくことができるか、大きなチャレンジだと考えています。

加えてですが、弥栄病院という地方病院での勤務をきっかけに病院運営や業務改善といったマネジメントに興味を持ちまして、退職後公認会計士資格を取り、東京にある監査法人にて大学病院や製薬企業の会計監査に従事、その後医療コンサルタントとして病院経営改善を担ってきました。前職の和歌山日赤で小児科医に復帰するとともに医療連携室や経営企画室担当として経営改善にも参与してきましたので、その経験を診療にも活かさせていければと考えております。

趣味は自転車、ロードバイクをこよなく愛しております。峠があれば登りたくなるという、通称「坂バカ」というやつです。通勤も基本自転車で。車で見かけられましたらどうぞ十分な距離を保ってよけていただきます（笑）。



院内感染対策勉強会

佐竹先生が講師で結核に関しての勉強会が開催されました。資料より重要なポイントを抜出しました。

ポイント1

受診の遅れが問題

結核患者を調査すると症状が出てから医療機関を受診するのに2ヶ月以上かかっている人が20%程度です。

- ・働き盛りの20歳から59歳では30%と多い
- ・仕事をしていると受診が遅れる
- ・かかりつけ医がないと受診が遅れる
- ・タバコを吸っていると受診が遅れる

全国集計でも働き盛りの30代から40代で受診の遅れは改善していません。
啓蒙の継続は必要になります。

ポイント2

診断の出発点は、“結核かも？”と疑うことが大切

結核では、自覚症状を全く欠くことも稀ではなく、また結核に特有の症状はありません。2週間以上持続する咳や痰、血痰や喀血、胸痛などの呼吸器症状発熱（微熱とは限らない）、盗汗、食思不振、全身倦怠感、体重減少などの全身症状

特に、高齢者では活動性の低下など、不定愁訴や全身症状が主な症状となることも稀ではない。

ポイント3

結核治療における禁忌事項があります。

1. 単剤治療は1剤ずつの開始は行ってはならない
2. 結核の可能性のある状態に、単剤（LVFXなどのキノロン系薬がありがちである）の使用は行ってはならない。（以上について、潜在性結核感染症の治療は除く）
3. 排菌があり状態が悪化しているときに1剤ずつ追加または変更を行ってはいけない。
4. 何らかの患者支援、服薬確認がない状態で投薬のみを行ってはいけない。

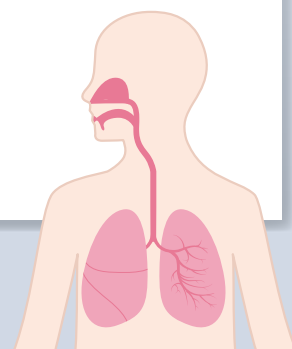
ポイント4

治療終了後に必要なこと。

治療終了後の再発率は5年間で3－4%です。

再発の半分は治療終了後1年間で生じ、その後指数的に減少するとされています。

治療終了後2－3年は経過観察で治癒判定します。3－6ヶ月ごとの受診と喀痰、胸部X－P有症状時の受診を指示します。



丹後圏域地域リハビリテーション支援センターの御紹介

地域リハビリテーションとは

『障害のある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々と共に、一生安全に、いきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活に関わるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力しあって行う活動のすべてを言う』と定義づけられています。

京都府には、京都府リハビリテーション支援センターを中心として6圏域1市域に地域リハビリテーション支援センターが設置されています。

当院は、平成23年度に京都府より『丹後地域リハビリテーション支援センター』に指定され、センター長（医師）とコーディネーター（リハビリ療法士）を配置し、各事業運営を行っています。

センター長は西島直城病院長、コーディネーターはリハビリ部東小百合（理学療法士）です。

丹後地域リハビリテーション支援センターは、地域リハビリテーションや地域包括ケアシステムを遂行していく上で、丹後保健所や関係機関と協力しながら事業運営を行い、地域づくり、まちづくりに寄与できればと考えています。

京都府内のリハビリテーション支援センター



リハセンではこのような事業を行っています

1 リハビリ相談・訪問指導

リハビリテーションに関する相談を受け付け、訪問による相談指導を行います。

【対象者】 事業所の介護支援専門員、訪問看護師等のスタッフ

【内 容】 利用者のリハビリや住宅改修、福祉機器の利用など

【申込み】 センターへの電話、FAX、メールにより受け付けます



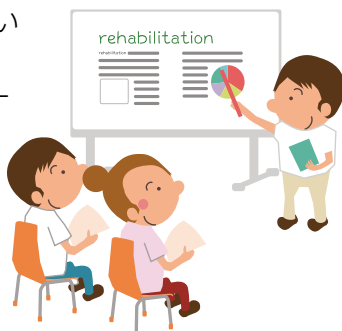
2 地域包括支援センターに対する助言・相談

地域包括支援センター等が開催する会議において、地域におけるリハビリテーション資源の紹介および活用に関する助言・相談を行います。



3 事例検討会・研修会の開催

定期的に事例検討会や研修会を開催する。在宅系事業所や施設でリハビリ関係業務に従事されている方への日頃の疑問の答え、わかりやすい内容の研修をおこない、地域におけるリハビリテーションの充実を図ります。



4 情報提供

支援センターのホームページまたは情報誌の『丹後地域リハビリ通信～うさぎのブランコ～』にリハビリ情報を掲載しています。

URL
<http://www.tangohp.com/tangoshien.html>



小児科 成長・発達外来 開設のお知らせ

小児科にて **成長・発達外来** を開設いたしました。

小児期は成長・発達することが特徴です。人には個性があり、成長・発達も一人一人異なりますが、その多くは個性の範囲内で異常ではありません。しかし、稀に成長や発達に影響を及ぼす病気がありますので、気になる方は受診をお願いします。

診 察 日：毎週火曜日

受付時間：13:00～16:00
(予約制)

担 当：百井 亨 院長補佐

身体について注意すべきポイントは以下になります。

☐ 身長	高すぎる／低すぎる	☐ 身長増加率	伸びすぎる／伸びない
☐ 体重	太りすぎ／やせすぎ	☐ 体重増加率	増えすぎる／痩せてきた
☐ 二次性徴	早熟／晩生	☐ 異性化	女性化／男性化

薬 の 豆 知 識

小児へのお薬の飲ませ方

4月より小児科の診察が始まりました。小さなお子様へのお薬の飲み方について紹介させていただきます。



水 薬：薬ビンを泡立てないように軽く振って混ぜ合わせ、正確に一回量をスポイトやスプーン、カップに取り、飲ませてあげましょう。



粉 薬：少量の水や白湯に溶かして水薬と同じように飲ませる。ミルクに溶かして与えると、ミルクを全部飲まなかったり、味が悪くてミルク嫌いになることがあるので避けましょう。ヨーグルトやアイスクリーム、お薬服用ゼリーに混ぜて食べさせても良いです。

服用後、湿疹や嘔吐などのアレルギー反応を起こす場合があります。体調の変化に気がいたら医師・薬剤師に相談して下さい。

アレルギー体質があったり、以前薬で副作用の経験がある場合は、事前に医師・薬剤師に伝えて下さい。

医師からお薬が処方されている間は市販薬を併用しないでください。なお、他の病院から処方されているお薬がある場合は必ず医師・薬剤師にお伝え願います。

小児の年齢別区分

新生児：生後28日以内

乳児期：生後1年未満

幼児期：生後1～6年

学童期：生後6～12年



送迎バスについて

透析患者様の送迎からスタートし、平成24年から宮津、与謝、岩滝方面の送迎が平成25年秋からは、京丹後市、伊根町、但東町方面も始めています。

現在年間3,100名程度の患者様の来院をお手伝いさせていただいております。

施設部では全員が中型以上（大型4人、中型10人）の2種運転免許を取得し2台の送迎車（乗車定員14人、10人各1台）に4名の運転手に対応させていただいております。その他、豊岡、久美浜等々特別送迎も行っております。

患者様の要望に添えますよう日々送迎順路、時間、停車場所等々検討しておりますが行き届かない箇所も沢山あると思っております。

職員の皆様にも少しのヒント、患者様の相談事等ご連絡いただければさらに充実した送迎が出来ると思っています。

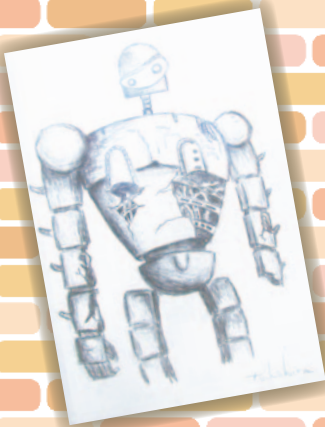


巡回 送迎バス



《施設部》

展示のご紹介

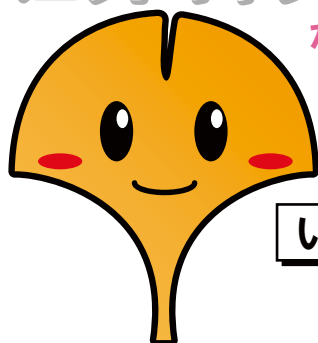


本病院にリハビリ通院
および手術をされた患者
様の作品です。右手が使
えなくなったため、左手
を訓練して描かれた作品
です。退院後にコンク
ールに出展される予定です。

丹後中央
病院の

マスコットキャラクター

がきました。



いちょうクン

編集後記

陽だまりVol.21が大変
遅れまして、申し訳あり
ません。

今後は年4回確実に発刊し
てまいります。

編集担当：秘書広報課 中田

外来担当医表

丹後中央病院 外来担当医表

平成28年 6月1日付

公益財団法人
丹後中央病院

〒627-8555 京都府京丹後市峰山町杉谷158-1
tel(0772)62-0791 http://www.tangohp.com/

午前・午後診療		午前診療	受付時間 7:30～11:30 (土曜日受付は11:00まで)	診療時間 9:00～	第1・3・5土曜日休診 (院長外来は第5土曜日のみ休診)		
		午後診療	受付時間 7:30～14:30	診療時間 13:00～			
診療科	後 診察室番号	月	火	水	木	金	土 (第2、4週のみ)
一般内科	午前	A-1	初診外来 (神経内科) 今井忠彦	初診外来 (神経内科) 今井忠彦	(神経内科) 今井忠彦	(神経内科) 今井忠彦	(神経内科) 今井忠彦
	午後	A-5	初診外来 上古直人		初診外来 上古直人	初診外来 (禁煙外来) 上古直人	診察室 A-13 徳岡泰紀
消化器内科	午前	A-15	11:15受付終了 診察 9:30～ 楠本聖典	第2・4週 診察 9:30～ 遠藤文司	濱田暁彦	京大医師	水本吉則
	午後	A-15	予約制 第1週のみ 楠本聖典		予約制 濱田暁彦		
循環器内科	午前	D	診察10:00～ 革嶋恒明	診察 第1・3・5週 亀井俊治 9:30～ 第2・4週 田川雅梓	第1・3・5週 豊田俊彬 第2・4週 嵯谷泰彦	診察10:00～ 舟越俊介	第1・3・5週 渡邊大基 第2・4週 谷口智彦
	午後	D	予約制 革嶋恒明		予約制 第1・3・5週 豊田俊彬 第2・4週 嵯谷泰彦	予約制 舟越俊介	予約制 第1・3・5週 渡邊大基 第2・4週 谷口智彦
糖尿病内分泌科	午前	A-2		予約制 佐古伊康			初診外来 非常勤医師
	午後	A-2	予約制 佐古伊康			14:00 受付終了 予約制 革嶋幸子	
神経内科	午前	A-4	隔週交替制 端祐一郎 太田真紀子				診察 第1・2・3週 小芝 泰 9:30～ 第4週 太田真紀子
	午後	A-4					
呼吸器内科	午前	A-3	佐竹範夫	佐竹範夫	佐竹範夫	佐竹範夫	佐竹範夫
	午後	A-5			第2・4週 中江龍仁		(呼吸器アレルギー) 安場広高
血液内科	午前	A-4					岩井文絵
小児科	午前	A-7	儘田光和	儘田光和	儘田光和	儘田光和	
	午後	A-7	予約制 専門外来 儘田光和	予約制 成長発達外来 百井 亨 1ヶ月検診 儘田光和	予約制 ワクチン外来 儘田光和	予約制 専門外来 儘田光和	
外科	午前	A-10	荒深景一	藤田真一	荒深景一	岩崎純治	藤田真一
脳外科 (頭痛外来)	午前	A-9		深谷賢司			第2週 西崎大輔 第4週 永吉直樹
	午後	A-9				受付～17:00 診察14:00～ 深谷賢司	
第1 整形外科 リウマチ科 (B棟)	1診 (院長)	B	10:30 受付終了 西島直城	10:00 受付終了 西島直城	10:30 受付終了 西島直城	10:30 受付終了 西島直城	10:30 第1～4週 (第5週休診) 受付終了 西島直城
第2 整形外科 (B棟)	2診		増田敏行	増田敏行		増田敏行	丸尾陽平
第3 整形外科 (C棟)	3診	C	西川玲子	南 瑠那	西川玲子	西川玲子	南 瑠那
	5診		安藤義博	10:00 受付終了 安藤義博	安藤義博		安藤義博
整形外科	6診	B			福本 彰	福本 彰	京大リウマチセンター (伊藤准教授ほか) 受付10:00終了
	午後			受付15:00終了 診察14:00～ 増田敏行		受付15:00終了 診察13:30～ 西川玲子	
リハビリテーション科 (受付 11:00 終了)	午前	E	岩崎まどか	岩崎まどか	岩崎まどか	岩崎まどか	西川玲子
麻酔科 (ペインクリニック) (痛み外来)	午前	B			【救急室】 川崎一良		
	午後	B			【救急室】 川崎一良		
耳鼻咽喉科	午前	D	田中 寛	田中 寛	田中 寛	田中 寛	田中 寛
泌尿器科	午前	D	益田良賢	島田 治	福井勝一	福井勝一	中川雅之
眼科	午前	D	診察9:45～ 黒田能匡	黒田能匡		診察9:45～ 横田 聡	横田 聡
皮膚科	午前	A-12					平野智子
	午後	A-12		第1・3・5週 石田雄大 第2・4週 足立昇正			

診察予約は8週間先まで予約できます (診療科により異なりますので、受付にてご確認ください)

夜間診療		受付時間 16:00～18:15		診療時間 17:00～				
診療科		後援 診療室番号	月	火	水	木	金	土
内科		A-3,4,5,15	(呼吸器内科) 佐竹範夫		(消化器内科) ※ 濱田暁彦		(消化器内科) 濱田暁彦	
				(呼吸器内科) 佐竹範夫		(一般内科) 保田真吾		
外科		A-10	荒深景一				藤田真一	
第1 整形外科 リウマチ科 (B棟)	1診 (院長外来)	B	西島直城		西島直城		西島直城	
	2診		安藤義博		安藤義博		増田敏行	
リハビリテーション科 (第1整形外科)			西島直城/安藤義博		西島直城/安藤義博		西島直城/増田敏行	
耳鼻咽喉科		D	診察16:30～ 田中 寛				受付15:30～ 診察16:00～ 田中 寛	
泌尿器科		D			福井勝一			
眼科		D	黒田能匡				受付15:30～17:30 診察16:00～18:00 横田 聡	

※水曜 濱田医師・・・午後診療が長引く場合があります

【棟配置図】



次回担当医変更予定: 平成28年7月1日